

令和8年度『筑波社工会(総会)』(2026年6月6日土曜at筑波大学)

<< **社工1期生からの提案: 母校に寄付と人的貢献を!** >>

 筑波大学 *University of Tsukuba*

IMAGINE
THE
FUTURE.

NPO法人
JECK

国際協力専門家コンサルティング

Bilingual and/or **English** Study Tour

現役学生のキャリア形成のための 連携講座開設の提案(素案)

—現場を見て考える実務教育と就活への橋渡し—



**調査員
募集中**

立命館大学 経済学部 教授 黒川清登
NPO法人JECK副理事長 博士(学術)
(筑波大学・関東学院大学 非常勤講師)

Prof. Kiyoto KUROKAWA Ph.D

Professor of Graduate School of Economics

Ritsumeikan University

Address: 1-1-1 Noji-higashi, Kusatsu, Shiga 525-8577 JAPAN

Tel: +81-77-561-2796、090-6013-5937

E-mail: kiyotok5@yahoo.co.jp

YNU
YOKOHAMA National University

 立命館大学
RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

 ジャイカ
jica

KGU 関東学院大学
KANTO GAKUIN UNIVERSITY

 MEIJI GAKUIN
UNIVERSITY
MG



研究領域

- ・ まちづくり、中小企業振興、地域経済振興、
- ・ 高齢化社会問題、災害に強いまちづくり、留学生指導



三井住友銀行

学歴

- ・ 筑波大学社会工学類 社会経済システム専攻卒業（1981年/1期生）
- ・ 筑波大学大学院 生命環境科学研究科 博士課程修了 博士（学術）



職歴

- ・ 株式会社三井銀行（プロジェクト金融部、上海、大連駐在等 1981-1990）
- ・ 国際協力機構JICA（ロンドン駐在、JICA研究所等 1990-2010）
- ・ 北海道大学サステイナビリティ推進機構 非常勤講師（2008-2013）
- ・ 横浜国立大学大学院 環境情報学府 教授（2010-2013）
- ・ 立命館大学 経済学部 教授（2013～2028）
- ・ 筑波大学・関東学院大学 非常勤講師
- ・ **NPO法人JECK 副理事長**（JICA横浜内でJICA専門家経験者が設立）



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY



横浜国立大学
YOKOHAMA National University



立命館大学



渡航国数：101か国 途上国が中心

問題意識

なぜOBOGの支援が必要か？

- ①OBOGの歩みの軌跡をキャリア教育で還元しよう！
- ②工場StudyTourなど、学生を現場に連れ出そう！！

進化する大学のカリキュラムと卒業生の役割

I. **大学の社会連携**は十分か？ → 少子高齢化で**社会課題は激増**

1. 企業連携（民間企業（大企業・中小企業・起業支援など）
2. 地域連携（地方自治体との連携）→ コミュニティの崩壊、防災の共助
3. 海外連携（海外パートナー大学、研究機関、SATREPS 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（JST）など）
4. 高大連携（高校教育との連携）→ 少子化で私学の困り込み進展

II. 実務教育の拡充（現場主義）

1. **工場Study Tour**の実施→ ものづくり大国に復帰させよう！
2. 上下水道、ゴミ焼却場、発電所、洪水対策などの**インフラStudy Tour**
3. イノベーション関連施設、**起業支援**施設などで起業家精神を！
4. 内向きになった学生に、**海外勤務の楽しさ**を伝えよう！

進化する大学のカリキュラムと卒業生の役割



III. 卒業生が何かできることは無いか？

1. **一流企業**で役員クラスに出世したOBOGは多い。
2. 他大学で**教授**になったOBOGも多い。
3. **公務員**で活躍しているOBOGも多い。



→しかし、**母校への貢献**は十分と言えるのか？？？

母校のために寄付を募ろう！、人的貢献（講義など）もしよう！

→OBOGの**卒業後の歩み**、その紆余曲折は、キャリア教育で活かそう！

BS朝日の「トップの源流」の要領で、プレゼン資料にまとめよう！

日本の経済界で活躍するリーダーたちの、ビジネスパーソンとしての「源流」を探るドキュメンタリー。「源流」とは、家族や友人・仕事の上司・心揺さぶられた音楽や風景など様々。そこには、何者でもなかった自分が抱いた、**まだ見ぬ未来への希望**があります。番組ではゲストへのロングインタビューに加えて、その「源流」を訪ね、当時の思いを追体験。そして、新たな夢や挑戦を伺っていきます。

寄付講座を開設する手続き(一般論) →少額の寄付でも開設可能です！

1. 大学側の評価の視点:「学生の教育効果」「**就職支援への貢献**」「**産学連携**」
2. 講座名
例:地域企業キャリア論、アントレプレナーシップ論、日本企業研究・業界研究(実務家の視点での日本経済論)などを検討
3. 目的:学生の就業観形成、地域経済の振興(中小企業振興+地場産業支援)、留学生も含めた就職支援、等
4. 対象:全学群1~4年生等 (留学生向けの**All English講座も要検討**)
5. 単位・回数:75分授業を10回、講義の場合1単位(集中講座も検討)
6. 実施方法:対面、GD(Group Discussion)、**フィールド調査(企業訪問)等を含める。**
7. 講師:OBOG・企業経営者等
8. 予算:講師謝金+交通費→2万円×10人+諸経費? **30万円×3年間=90万円/講座?**
9. 継続年数:3年間、以降、見直して拡充する。e.g.「地域プロジェクトマネージャー養成課程」
10. 成果指標:
業界・企業研究等の課題レポート成績、英語プレゼン能力、就職率、講座への参加人数、アンケート調査による満足度等の把握等

比較研究：阪大と筑波
社会工学の特徴は、十分か？



大阪大学 経済学部 2026

多彩な実践講義、企業等との連携、充実した計量系のプログラム

大阪大学経済学部(定員220)の充実した計量系科目と実践講義

専門基礎必修：解析学入門、線形代数学入門 各2単位

選択必修：マクロ経済、ミクロ経済、統計、計量経済、応用計量経済 各4単位

選択科目：数理経済、上級マクロI, II、上級ミクロI, II、上級計量経済I, II各4単位

特殊講義「**機械学習**を用いたデータ分析」、「基礎**機械学習**」、「行動・実験経済学入門」、「実証的日本経済論」各2単位

実践講義：「データサイエンスのビジネス活用実践」：明治安田生命保険相互会社、「実践 顧客基点のデジタルトランスフォーメーション」：(株)電通デジタル、高山隼佑(招へい教員)、「ビジネスモデル研究」：株式会社U-TEAM、「アセットマネジメントの理論と実務」資産運用業協会、「リーダーシップ開発」アビームシステムズ(株)、「ビジネスリーダー基礎論 ~企業改革から学ぶビジネスの理」株式会社オースビー、「リーダーシップ開発」アビームシステムズ(株)など

専門セミナー「**Pythonによる経済分析**」、「データ分析のための統計学入門」、「データ探索・モデリング入門」、「**機械学習入門**」各2単位

必修セミナー：「専門セミナー」2単位、「研究セミナー」4単位

https://www.econ.osaka-u.ac.jp/wp-content/uploads/2026/02/2026kaikoukamoku_bc.pdf

1 年

専門基礎科目

- ・ 数学リテラシー1・2
- ・ 線形代数 1・2・3
- ・ 微積分 1・2・3
- ・ 統計学

- ・ 経済学の数理
- ・ 経済学の実証
- ・ 会計と経営
- ・ 社会と最適化
- ・ 都市計画入門
- ・ 都市数理
- ・ プログラミング入門 A
- ・ プログラミング入門 B

基礎科目(共通科目・関連科目)



4 年

専門科目

社会経済システム主専攻

- 計量分析システムエリア(講義・演習)
- 公共システムエリア(講義・演習)
- 戦略行動システムエリア(講義・演習)
- ・ 卒業研究

経営工学主専攻

- マネジメントエリア(講義・演習)
- 情報技術エリア(講義・演習)
- 数理工学モデル化エリア(講義・演習)
- ・ 卒業研究

都市計画主専攻

- 都市計画共通(講義・演習)
- 環境とまちづくりエリア(講義・演習)
- 都市構造・社会基盤エリア(講義・演習)
- 地域科学エリア(講義・演習)
- ・ 卒業研究



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学 理工学群
社会工学類

筑波の社会工学は、
設立時には、その
学際性が際立つ存
在であったが、、、

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
プログラミング入門 A/B	社会学演習 社会学英語		卒業研究 A 卒業研究 B
数学リテラシー1 数学リテラシー2 微積分 1 微積分 2 微積分 3 線形代数 1 線形代数 2 線形代数 3	計量分析システムエリア		
	計量分析システム演習 計量経済学 マクロ計量分析 金融論		
	計量時系列分析 日本経済論		
統計学	公共システムエリア		
経済学の数理 経済学の実証 会計と経営 社会と最適化 都市計画入門 都市数理	公共システム演習 国際金融論 公共経済学 財政学		
	マクロ経済学 ネットワーク科学 社会政策		
ファーストイヤーセミナー 学問への誘い 外国語（英語） 情報	戦略行動システムエリア		
	戦略行動システム演習 ゲーム論 意思決定論 進化ゲーム論		
	経済行動論 ミクロ経済学 実証ミクロ経済学		
	他主専攻のエリア科目		
基礎科目（共通科目・関連科目）			

社会経済システム主専攻

本主専攻は、社会経済をシステムとして捉え、**経済学的・理工学的**アプローチにより社会経済システムの構造やそれが円滑に機能するための条件を理解し、社会経済問題の発見・問題解決のための適切な政策を学ぶことを目的としている。

→この記述をもっと先進的にできないか？

Python(パイソン)や機械学習は学べるのか？

1年次	2年次	3年次	4年次
プログラミング入門 A/B	社会工学演習 社会工学英語	問題発見と解決	卒業研究 A 卒業研究 B
数学リテラシー1 数学リテラシー2 線形代数 1 微積分 1 線形代数 2 微積分 2 線形代数 3 微積分 3	マネジメントエリア		
	マネジメント演習 マーケティング 経営学 ファイナンス 生産・品質管理		
統計学	情報技術エリア		
	情報技術演習 情報ネットワーク 計算機科学 データ解析 シミュレーション 経営と機械学習		
経済学の数理 経済学の実証 会計と経営 社会と最適化 都市計画入門 都市数理	数理工学モデル化エリア		
	数理工学モデル化演習 数理最適化法 数理統計学 応用確率論 離散数学		
ファーストイヤーセミナー 学問への誘い 外国語（英語） 情報	他主専攻のエリア科目		
	基礎科目（共通科目・関連科目）		

経営工学主専攻

社会における人間の営みを、企業やその他の組織体の視点からアプローチする学問、
工学的/数理的/科学的手法によってこれに取り組むのが経営工学。経営工学主専攻では、世界に通用する「**数学力 × IT力 × 現場力**」を身に付けた人材の育成を掲げ、マネジメントエリア・数理工学モデル化エリア・情報技術エリア、という3つのエリアを提供
 → **現場力は十分か？**

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
プログラミング入門 A/B	社会学演習 社会学英語		卒業研究 A 卒業研究 B
数学リテラシー1 数学リテラシー2 線形代数 1 微積分 1 線形代数 2 微積分 2 線形代数 3 微積分 3	都市計画共通		
	都市計画原論 都市計画演習 基本製図 都市計画の歴史 都市計画情報演習 都市計画事例講義 施設設計演習 都市計画の思想史* 都市計画インターンシップ		
	環境とまちづくりエリア		
統計学	住環境設計演習 住環境計画概論 空間デザイン論 都市緑地計画 現代まちづくり論 都市文化共生計画*		
経済学の数理 経済学の実証 会計と経営 社会と最適化 都市計画入門 都市数理	都市構造・社会基盤エリア		
	都市計画マスタープラン演習 土地利用計画 都市環境評価論 都市防災計画 交通計画		
	地域科学エリア		
	都市・地域科学演習 都市経済学 地域経営・行政論 政策・公共事業評価 都市解析 環境政策論*		
ファーストイヤーセミナー 学問への誘い 外国語（英語） 情報	他主専攻のエリア科目		
基礎科目（共通科目・関連科目）			

都市計画主専攻

都市計画主専攻のカリキュラムは、

【環境とまちづくりエリア】

【都市構造・社会基盤エリア】

【地域科学エリア】

の3エリアと

【都市計画共通】

の科目群から構成

→ **日本地域学会**（筑波大のプレゼンス強い）との連携は十分か？

国家公務員総合職(春試験)出身大学別最終合格者数

2025年度実績

順位	大学名	合格者数
1	東京大学	171
2	京都大学	112
3	早稲田大学	76
3	北海道大学	76
5	東北大学	72
6	立命館大学	62
7	中央大学	58
8	東京科学大学	54
9	大阪大学	52
9	慶應義塾大学	52

公認会計士試験出身大学別合格者数

2025年度実績

順位	大学名	合格者数
1	慶應義塾大学	177
2	早稲田大学	149
3	明治大学	81
4	中央大学	64
4	同志社大学	64

順位	大学名	合格者数
6	立命館大学	55
7	東京大学	54
8	京都大学	49
9	神戸大学	44
10	一橋大学	41

三田会発表

立命館大学は、その**エクステンションセンター**で学生の資格取得を**組織的に支援**（奨学金、学内での外部講師セミナー、OBOGとの連携など）

司法試験出身大学院別合格者数

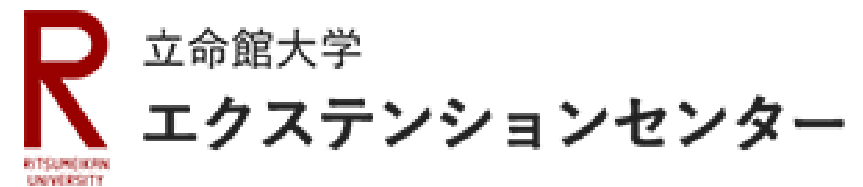
2025年度実績

順位	大学名	合格者数
1	早稲田大学	150
2	京都大学	128
3	慶應義塾大学	118
4	東京大学	116
5	中央大学	77
6	一橋大学	61
7	神戸大学	56
8	東北大学	49
9	大阪大学	48
10	同志社大学	40

順位	大学名	合格者数
11	名古屋大学	32
12	九州大学	26
12	北海道大学	26
14	立命館大学	22
15	日本大学	21
15	明治大学	21
17	東京都立大学	18
18	関西学院大学	17
19	千葉大学	16
20	筑波大学	12

法務省発表

エクステンションセンターが選ばれる6つの理由



01 立命館学生の専用カリキュラム

キャンパス内で受講できる(正課の授業後、オンラインや**キャンパス内の教室で受講**が可能！通学による時間のロスや交通費負担もありません。)正課授業への配慮

02 快適な**学習環境**を実現：有料／選抜式の個室

03 経済的サポートが充実：一般的な学外の専門学校に比べて2割～7割安い金額で各種講座を受講

04 安心の**奨学金**制度：在学中に、国家公務員総合職試験や公認会計士試験等に最終合格した学生を対象として**30万円**(2025年度実績)が給付

05 **面接対策**もバッチリ：エントリーシート相談・模擬面接(面接で必要となるエントリーシートなどの相談、個人面接や集団面接、集団討論の対策など、筆記試験合格後も就職決定までサポートします。先輩による支援(内定者である4回生(JA)や**卒業生**(CA)が学内で後輩をサポート。オール立命館で試験合格とその後の就職活動を支援します。)

※JA:ジュニア・アドバイザー CA:キャリア・アドバイザー

06 圧倒的な**情報量・ノウハウ**：過去に同じ試験を受験し、見事合格を果たした先輩の記録が閲覧できます。直接話を聞きたければ、メールや電話でコンタクトをとることも可能

<https://www.ritsumei.ac.jp/extension/about/featurers/>



北海道大学での連携講座

①全学の教養科目、**国際交流科目** (All English) での連携

②JICAと北大経済学部との連携

北大の特徴： 1. フロンティア精神 2. **国際性の涵養**
3. 全人教育 4. **実学の重視**

北海道大学経済学部とJICA札幌の連携講座



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY



平成19年度（2007） J I C A 北大連携講座

「**国際経済協力概論**」 対象3, 4年生

時間：木曜 14:45 ~ 16:15 (90分)

講義担当期間：4月12日木曜から7月26日木曜まで計14回

教室：北大 人文・社会科学総合教育棟W103教室

（構内中央道路沿い（北大博物館の東側））

（VHSビデオ、プロジェクター、スクリーンは備え付け有り。PCは持ち込み必要）

非常勤講師（発令有り）：筧、田中、**黒川**、中曽根、荒、林、杉山（7名）

ゲストスピーカー：協力隊OB1-2名を予定。（謝金有り、非常勤講師発令なし）

特別休講：第49回北大祭期間中（6月7日木曜～10日日曜）は休講。

期末テスト：実施する場合は、8/7（火）～13（月）の定期試験期間

JICA側全体企画運営とりまとめ：**黒川**、杉山 →**北大は講師謝金のみ手当**

連携講座担当教官：岡部洋實（ひろみ）教授（北海道大学経済学研究科／経済学部）8

JICAと北海道大学は2025年6月12日（木）に北海道大学にて、2020年7月に締結した連携協定の有効期間が満了することを受け、同大学と協定の更新を行いました。**2005年**の締結から今回で4回目の更新

平成17年7月14日 留学生教育専門委員会 国際交流科目提供の指針 (2006年10月期～2007年4月期開講)

I 基本的考え

平成14年度の「国際交流科目規程」の改正により、従来HUSTEP留学生にのみ開講されていた国際交流科目は本学の全学生に開放されるようになった。**国際性の涵養**を長期・中期目標の一つに掲げる本学としては、**外国語**による授業科目群である「国際交流科目」を教育の国際化に不可欠な科目群として位置づけ、全学的かつ積極的に取り組むことが重要である。＝ (中略) ＝

留学生と日本人学生が交流を深め、多様なアプローチや価値観のあることを認識し、相互に啓発し合える科目として国際交流科目が発展し、北大の教育理念であるリベラルで国際的な精神の涵養に寄与することを目標とする。

II 科目の編成

北海道大学における教育の国際化を推進する「国際交流科目」は全学教育科目、学部専門科目、大学院専門科目の3つのレベルに相当する科目から構成される。各部局等から提供される科目はいずれのレベルでもよい。

- 1) 全学教育科目相当の科目は、文系・理系を問わず広い視野と思考力を育む**教養科目**とする。
- 2) 学部専門科目相当の科目は、外国人学部留学生にとっては原籍校での単位互換を容易にし、また日本人学生にとっては留学準備の一環になりうる科目とする。
- 3) 大学院専門科目相当の科目は、大学院重点化基幹大学としてその導入と促進が望まれるものであり、長期・短期大学院留学生と大学院留学を志す日本人大学院生に有益な科目とする。

Ⅲ科目内容

新しい視点や構想にもとづく科目の導入に対して積極的な取り組みが望まれる。内容としては次のものが期待されるが、必ずしもそれらに拘束されるものではない。

- 1) 現代国際社会に共通する**グローバルな課題**を扱う科目
- 2) 日本や北海道に関する地域密着型の科目
- 3) 従来の文系・理系にとらわれない**横断的科目**
- 4) 北大が得意とする（または推進する）分野の科目

Ⅳ授業提供の方法

提供の方法は次のいずれでもよい。

- 1) 国際交流科目の新規開講、2) 既存の国際交流科目の継続、3) 既存の全学教育科目および学部・研究科の専門科目の**英語化**、4) 国際交流科目は全学教育科目および学部・研究科の専門科目と重複して提供（合同授業）することができる。全学教育科目、学部専門科目、大学院専門科目と合同授業の場合は、各々の科目の開講時間帯にあわせること。

V授業形態：さまざまな授業形態を積極的に導入する。

- 1) **国際交流科目は原則として英語**で行う。、2) **学内外での研修・見学および体験学習**（集中型・合宿型）なども取り入れる。、3) 1科目を複数の教官が分担する場合は、3人位までとすることが望ましい。、4) 学生の積極的授業参加を促す授業が期待される。、5) 原籍大学における単位認定に配慮し、課題・試験および成績評価を明確にする。、6) 通訳アシスタント（TA）などの導入も可能とする。

横浜国大での連携講座

コマツとNPO法人JECKが協力

JICA横浜とYNUの連携講座 2019～継続中

横浜国大で実施の寄付講座 (2009年のゲストスピーカーから開始)

横浜国立大学経済学部での特別講義

横浜国立大学からJECK出前講座の要請があり、経済学部の山崎圭一教授、大門正克学部長と協議して、2日に亘って、4人のJECK会員が講師を務めて4年生を対象とした下記内容の特別講義を実施した。

メインテーマ:**国際協力・支援活動の現状と課題**(各分野の活動事例の体験報告と今後の展望)

“**物づくり**産業分野における国際協力・支援活動と二・三の考察”……講師 菊池正夫

“財務管理を中心とした**中小企業経営改善**の技術移転”……講師 加藤博通

“ウズベキスタンにおける**人材開発**プロジェクト”……講師 福田信一郎

“国際政治と国際協力・ODAについて”……講師 谷岡潔

尚、この特別講義は'09年度も引続き行われる予定であり、JECKはコマツと協力して、新しい講座を開設して、その運営に当たることになった。

https://www.jeck.jp/kaiho01_from/kaiho12.pdf#zoom=110

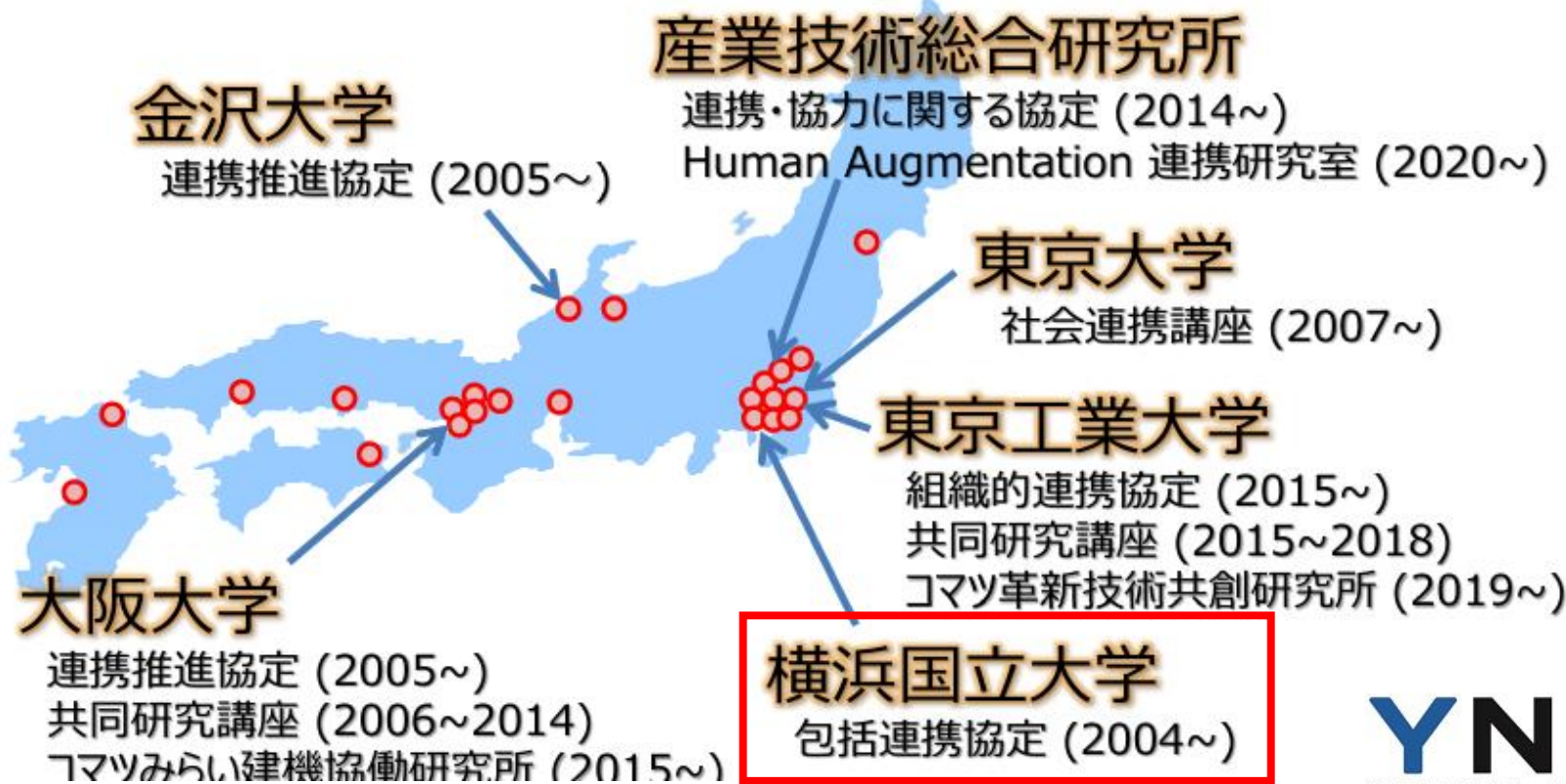
NPO法人
JECK
国際協力専門家コンサルティング

YNU
YOKOHAMA National University

- ◆ 開発・生産拠点に近い大学・研究機関との連携
- ◆ 国内の約30の大学・研究機関と連携
(海外を含めると、40機関以上と連携)
- ◆ うち6機関とは「組織」対「組織」の連携体制を構築

2021年1月現在

アカデミアにとってのアウトプットは、「論文」、「人材育成」
コマツにとってのアウトプットは、「製品」、「サービス」、「人材育成」



横浜国大で実施の寄付講座

2009年度後期と2010年度前期に、経済学部では、既存の寄付講座にくわえて新規に2つの寄付講座(各半期)を開設しました。昨年度はコマツの「日本の国際協力*」、今年はJECK提供の「日本の環境・経済発展協力」です。いずれも経済学部の専門科目の講義(特殊講義)ですが、前者は、本学とコマツ社の間に締結されている産学連携に関する包括協定の1部を構成するものです。

合計28名のゲスト講師を招き、**発展途上国への技術協力事業**の最先端事業を紹介、分析していただきました。講師の多くは、技術畑出身の国際ビジネスマンまたは横浜市の行政職員で、臨場感あふれる講義が毎週展開され、受講生に大変好評でした。

経済学部 国際連携委員 山崎圭一教授

<https://www.econ.ynu.ac.jp/hus/econ/671/>



*2010年ころは、コマツは日本政府のODA案件、**地雷除去**プロジェクトに取り組んでいた。

平成22年度(2010)横浜国立大学 経済学部 特殊講義 **コマツ提供講座「日本の国際協力」**

(後期 2単位)



国際協力専門家コンサルティング

この講座の
予算は、
コマツが提
供したJECK
講師の謝金、
約30万円

回数	日付(金曜日)	講義テーマ	講師名	講師の現在の所属、職名等
第1週	10月8日	JICAが行う政府開発援助の概要について	米林徳人	独立行政法人国際協力機構(JICA)、 横浜国際センター市民参加協力課 研修業務第二課 課長
第2週	10月15日	国際政治と国際協力・ODA——社会・経済専門コンサルタントの視座から——	谷岡潔	(株)プロジェクト経済研究所取締役
第3週	10月22日	財務管理を中心とした中小企業の経営改善 ——モンゴル、中国、パキスタン、アルゼンチン、 ベトナム、マレーシア、カザフスタンなどの事例——	加藤博通	JECK 副理事長
第4週	10月29日	開発途上国の国勢調査に関する技術協力	石井信行	(株)ティーエーネットワーク技術参与
第5週	11月12日	水資源利用分野における国際協力活動	中之菌賢治	NPO法人ジェックアソシエイツ理事長
第6週	11月19日	日本の水産ODAの現状と課題 ——特に太平洋地域の事例を中心として——	田中秀幸	(株)南太平洋バイオインダストリー取締役
第7週	11月26日	東南アジアでの交通計画支援	林下幸造	横浜市「APEC・創造都市事業本部 APEC開催推進課担当課長」
第8週	12月3日	果樹を中心とした農村開発の国際協力活動	安延義弘	安延農業技術士事務所所長農学博士
第9週	12月10日	JICAの初中等理数科教育拡充計画プロジェクト (1998~2005年、インドネシア)への参加経験と反省点から	汐崎郁代	JECK会員、理学博士、 日本語教室主宰(神奈川区)
第10週	12月17日	鋳造分野における国際技術協力	近藤展啓	JECK会員
第11週	12月24日	環境エンジンの開発	伊藤光一郎	横浜国立大学工学研究院 講師
第12週	1月7日	ウズベキスタンに於ける人材開発プロジェクト ——プロジェクト・マネジメント手法を適用して——	福田信一郎	アークビジネスコンサルタント・福田 代表
第13週	1月21日	対人地雷除去を通じたコマツの社会的貢献プロジェクト	柳楽篤司	コマツ海外事業本部 地雷除去プロジェクト室 副室長
第14週	1月28日	中南米における下水処理技術の支援と環境汚染対策	工藤真也	(株)オービーシー海外コンサル部技術アドバイザー
第15週	2月4日	物づくり産業分野における国際協力・支援活動	菊池正夫	JECK 理事
第16週	2月16日	筆記試験(期末試験)注:水曜日だが大学歴では金曜日扱い	JECK担当者+横国側担当者	



JICA横浜は、国立大学法人横浜国立大学(以下「YNU」)との**包括連携協定**に基づき、日本国内の大学生・大学院生を対象とした連携講座「現場から考える国際開発協力」を**2019**年度より実施しています。本講座は、JICAの海外事務所の全面的な協力を得て、開発途上国の課題を分析し、その解決に役立つ具体的な事業企画案(プロポーザル)をグループワークにより作成する内容で、**全10回**で構成されます。講座受講を通じて国際協力への関心を深めた学生は、JICA職員やJICA海外協力隊など、さまざまな形で国際的に活躍しています。

2025年度も、Bangladesh事務所の全面的な協力に加え、横浜市やYUSA(YOKOHAMA URBAN SOLUTION ALLIANCE)の支援のもと、連携講座が**2025年10～12月に実施**。

講座では、**12大学から参加した36名の学生が9チーム**に分かれ、ODAプロジェクトやBangladeshの現状と課題についての学びを深めたうえで、Bangladeshの開発課題である「地方行政」「都市交通」「**廃棄物**」に関する**事業企画案を検討**し、発表しました。

企画案はJICA横浜およびBangladesh事務所により審査され、最優秀企画・優秀企画が選ばれました。→**この講座は、毎年予算ゼロで実施**

明治学院、関東学院での 連携講座

JICA専門家として派遣された経験を持つ「大学教授」が指導のもと、
オムニバス形式で多数のJECK専門家が協力
大学側は、講師謝金（約30万円）のみ手当

1. 授業の目的

経済学部のカリキュラムにおいて、本科目は経済学科と経営学科の専門科目として2 Semester（1年次生）以降の学生を対象に配当される。実際に経済援助・経済協力に携わっていた方々から国際協力の現場に関する講義を聞くことで、経済学部の学生に日本の国際協力の実態について関心を高めてもらうことが本科目の目的である。

本科目では、**実践科目として臨場感のある講義**を期待する意味から、日本の国際協力・経済協力政策に基づいて世界各地で実際に活躍されている JECK（JICA 帰国専門家連絡会かながわ）に講義を委託する。

講師陣には、国際協力の仕事の内容と自らの貴重な体験談についてお話し頂くとともに、現代の国際協力の果たす役割と今後の課題についても触れて頂く。講義にあたっては、学生が講師の話を一方向的に聞くだけでなく、**質疑応答やディスカッション**などを交えることで、学生が主体的に学習に参加できるように講義に際して配慮をお願いしたい。

2021年度 **明治学院大学 × JECK** 連携講座「国際学特講I」（政府開発援助（ODA）の現場）
 （2026年度も内容を更新し**継続中**）



1	09月24日	中野 貴之	開発途上国の現状と政府開発援助(ODA)(JICA横浜)
2	10月01日	久米 秀俊	カンボジアの 物流改善 とJICA専門家としての役割
3	10月08日	内田 勝巳	ミャンマーの貧困と地方開発
4	10月15日	服部 孝政	ウガンダ共和国 米栽培普及から考える国際協力
5	10月22日	小川 忠之	開発途上国における再生可能エネルギー普及の課題と現状
6	10月29日	黒川 清登	フィリピン共和国 ウェブカメラによる 洪水の早期監視 システム
7	11月05日	青木 裕子	廃棄物管理 の国際協力
8	11月12日	西川 理菜	新興国における 社会起業家支援 の取り組み
9	11月19日	加藤 博通	財務管理を中心とした 中小企業 の経営改善
10	11月26日	小野寺秀逸	タイ・インドネシアの 中小企業 製造業の労働の実態
11	12月03日	吉田 博至	中東(イスラム圏)に於ける職業と経済活動
12	12月10日	木村 剛	三角協力 の目指すところと、その展望—ハイチで実施したプロジェクトの事例から
13	12月17日	富永 秀雄	農民の側に立った国際協力(農民の心に火を灯す)
14	12月24日	田中 秀幸	援助の現状と限界について—南太平洋とアフリカとの比較を通して—29

筑波大学の連携講座の実績



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学の 連携講座

文部科学省に採択！

筑波大学は、令和6(2024)年11月、文部科学省の「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業(以下「SI事業」)」の「**海外展開型**」に採択されました。

SI事業は国内外での国際的な共修のための体制の構築等を通じ、更なる大学の国際化の推進、日本人留学生の派遣、優秀な外国人留学生の受け入れ・定着それぞれが相互に作用する好循環の創出を目的として文部科学省において今年度から開始された事業です。

本学のプログラム「GASSHUKU(合宿)とDOJO(道場)によるグローバルスタートアップ人材育成」では、**116ヶ国・地域より2,400人を超える外国人留学生の在籍**し、多くの多文化共修科目が開設される本学の多文化共修環境のもと、日本人学生と外国人学生とが共に学び、大学が**企業・自治体と一緒に共育するプログラムを整備**します。本学は、学内外での様々な連携協働を通して、インクルーシブかつサステイナブルなスマート社会の実現に向け国内外を問わず社会を変革する行動力と実践力を兼ね備えたグローバルスタートアップ人材の育成を目指していきます。<https://social-impact.projects.tsukuba.ac.jp/news/191/>

キャリアデザイン系 筑波大学の事例

1. キャリア・プロフェッショナル養成講座(第16期)

～キャリア支援領域における指導者レベルの人材を養成・強化します～

<https://extension.sec.tsukuba.ac.jp/archives/lecture-list/3703>

本講座は、「人は、生涯、発達する。」を理念として、働く人への心理支援に関する研究および社会貢献を目的に設立された「働く人への心理支援開発研究センター」の活動の一環として実施されています。

企業・学校・需給調整機関(ハローワーク等)などの多様なキャリア支援領域における、**指導者レベルの人材の養成・強化**を目的としています。「キャリア・プロフェッショナル」として習得すべき知識、知見を**心理学および周辺領域の観点から**体系的に学ぶことができる、最新で高品質な大学院レベルのカリキュラムとなっています。

→心理学などを中心とした講師陣で、本件実務家を中心とした「寄付講座」とは異なる。

筑波大学 キャリアデザイン 入門「世界にはばたく 未来の自分」 2025年度

単位:1単位 75分x10回、受講対象:全学群の1年次を主とする。秋学期の水曜5時間目
授業概要:人生のなかでも重要な期間である大学での生活を、生涯における人生設計(キャリア・デザイン)の準備に必要な基礎づくりの期間として主体的かつ有意義に過ごすことを動機づけ、実践することを目的とします。特に、自己と文化の多様性の理解、社会と関わる力、変化する社会の中で主体的に生きる力を自ら身につけることを目指します。

授業の到達目標(学修成果)

1. 未来の自分は過去と現在とこれからの自分の積み重ねであることを意識しながら、大学生活の目標を明確にし、**キャリアデザインの力を発展させる**ことができるようになる。
2. グローバル社会の中で、**異文化コミュニケーションスキル**を向上させ、異なる文化の人と協働できるようになる。

授業計画(抜粋)

実践紹介(ゲスト):**企業での実践例**を通して、ますます不確実性を増す現代社会・生活、業界・企業動向、働き方などについて学ぶ。

筑波大学の学士基盤科目「**キャリアデザイン入門**」

多角的視点で未来を考える: グローバル人材育成セミナー

Exploring the Future from Multiple Perspectives

第7回 (2025/11/19)



筑波大学
University of Tsukuba



学生たちは「自分のキャリアを自ら主体的に描く力」と「**多文化環境で協働する力**」について理解を深め、今後の大学生活を見つめ直すきっかけとなりました。

←講師の黒川
(社会工学1期生)



1. 科目名: **多文化共修による課題解決実習**
2. 日程: 2026年 7月2-4日の3日間集中講義
3. 教室: 4月オープン予定の「**未来社会デザイン棟**」(カスミ店舗隣接)および、**現地実習**(スーパーマーケットなどの現地調査)
未来社会デザイン棟 | 筑波大学
4. 授業概要: 多文化チームによる**課題解決型ワークショップ**(PBL形式)
5. 担当部署・担当者: 国立大学法人筑波大学
ヒューマンエンパワーメント推進局(BHE)
業務推進マネージャー・助教
福嶋 美佐子 博士(政策科学)
非常勤講師 黒川清登(立命館大学教授(筑波大学OB))

2026年2月竣工 未来社会デザイン棟 (Future Society Design Complex)



(外観)



(大階段)



(会議室)



(イベントホール)



筑波大学
University of Tsukuba

学生×地域×企業
がつながる施設
「未来社会デザイン
棟」誕生

～学生が中心となっ
て運営する新たな
共創拠点～

筑波大学の寄付講座 事例



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学の寄付講座は、以下の特徴

1. **理系(特に医療系、大学院向け)**が多い
2. 企業、地方自治体などとの多彩な連携
3. **社会工学を対象としたものは、見当たらない。(残念) →OBOGが協力しよう!**

(例)

【社会連携講座】

地域医療・先端医工連携講座 人間総合科学研究科(医学系) **(株)日立製作所**

2011.4.1～2012.3.31

茨城県における地域医療と臨床研究の質的向上および公益性の高い共通課題を推進するため、県北・県央地域における地域医療と臨床研究の拠点とした教育等拠点病院を位置付け、医師の確保および教育指導体制の充実を図る。

詳細は以下を参照 ↓

<https://www.tsukuba.ac.jp/education/featured-endowed/pdf/kouza.pdf>

以下は2025年度の筑波大社会会での資料

2026年2月にも東京都大田区を対象としたStudy Tourを実施済み

2026年7月29-31日 京浜地区のStudy Tour実施予定（日本語）

2026年8月31日-9月2日 京浜地区のStudy Tour実施予定（All English）

NPO法人 JECK（横浜市中区JICA横浜センター内3F）メンバー募集中

1. **大学で講義**ができる。（横浜国大、明治学院大学、関東学院大学、立命館大学など）
2. 横浜/川崎/大田区を拠点とした、工場・インフラ・ものづくり等の**スタディツアー**を実施。
3. 国際協力、環境問題、防災(地震)などに関する**講演会、セミナー**を実施。
4. 国際理解教育のための**料理教室**の運営。
5. JECK会報を定期刊行、HP,Facebookなどで**情報発信**。<https://www.jeck.jp/>
6. 優秀な外国人材などの日本定着、就職支援などができる。
7. 旧東海道宿駅を拠点とした防災啓蒙活動(保土ヶ谷宿拠点)

(特典)

1. 横浜市、JICA、大田区、神奈川県などからの**補助金**
2. 地球環境保護に関するセミナーには、横浜市から補助
(ヨコハマ・エコ・スクール(YES)認定団体)
3. 大学等からの**業務委託**(StudyTour等)
4. テックスーパ登録団体として、IT製品などを2-9割引きで購入可能。→Zoom使用可等
5. JICA横浜センター3Fに**常設事務所**あり。
6. 横浜市内の国際交流ラウンジなどに団体登録済み。会議室、調理室など施設を利用可能。



問題意識

銀行、JICA、を経て大学教員になって感じた素朴な疑問

大学教員となって感じる、素朴な疑問



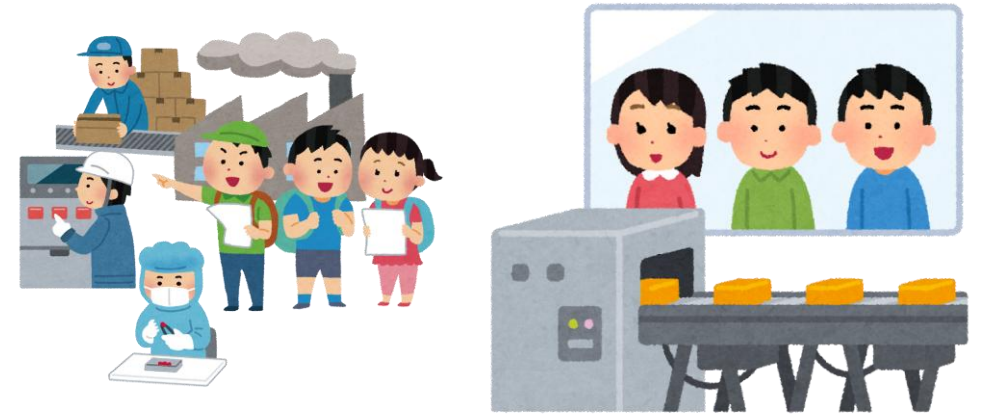
1. 日本の就活は、果たして役に立っているのか？
2. なぜ学生は、**就活には必死**になるのか？
3. なぜ大学や社会は、就活に無関心か？
4. なぜ学生は公務員を敬遠するのか？
5. なぜ学生は危険なベンチャーに憧れるか？

解決策： そうだ、工場（現場）に連れて行こう！



1. 就活を勉強に関連させる！
2. 学生の**就活への熱意を勉強にも**向けさせる
3. 社会と大学に**就活の意義・意味**を理解させる
4. 公務員と民間の仕事の関係を理解させる
5. どのように企業は**利益**を得ているか理解させる

なぜ工場Study Tourが必要か？



1. メーカーへの就活には、工場における生産性向上、QCサークル、TQM、カイゼン・5S、JITなどの理解が必要。
2. 工場における文系の仕事への理解が必要。具体的には、経理、人事、調達、生産管理、在庫管理、安全管理、総務など。（営業、広報、危機管理なども有り）
3. 食品メーカーであれば、さらに衛生管理、賞味期限管理など
4. 医薬品では、さらに品質検査、ZD運動（Zero Defects）など
5. 大企業の工場では、運動場・体育館も整備し、企業スポーツ部も盛ん。
e. g. 1953年大日本紡績株式会社（後のユニチカ）貝塚工場に日紡代表女子バレーボールチームを編成。のちに「東洋の魔女」とよばれる選手たちを育てた大松博文が1953年監督就任、1964年東京オリンピックで対ソ戦を経て金メダル獲得。企業にとってスポーツを通じた従業員の愛社精神の向上は不可欠。



I. 学生のニーズ

1. **就活の準備**を始めるには、どうしたら良いか不明。
→ 早期化により大学2年生もインターンへ。
2. 就活に役立つ教育が出来ていない。
→ 実務経験教員の大幅不足。キャリアセンターの事務職員の実務経験の乏しさ。

JECKが解決します！

II. 企業側のニーズ

1. 学生に注目して欲しい。
→ 世界に誇れる技術があっても、学生が振り向いてくれない。
2. **ものづくりの楽しさ**を知って欲しい。
→ ものづくり大国でありたい、、、
3. 新たな発想が欲しい
→ **新たなものづくり**に必要な若い感性が欲しい



工場スタディツアーの概要 その学びの意義

1. 工場Study Tourの概要

横浜・川崎・大田区は、日本の現代化の先駆け、国際化の玄関です。同時に日本最大の京浜工業地帯の開発・発展の歴史を学べます。このTourでは、港湾施設、上下水道、廃棄物処理施設、税関や工場群（JFE（旧日本鋼管）、レゾナック（旧昭和電工）、日産自動車などの大工場から中小企業）、日本の未来を切り開くイノベーションセンターでもある「みなとみらい21」などの資料館等を巡り、その変化、課題を体験を通して学ぶ。

2. JECKの役割 (Value of JECK) : 生産管理、在庫管理、マーケティング等の専門家がわかりやすく解説、工場の比較研究により、その特徴を明確化。英語で解説も対応。

3. 人数制限：10－20名：多くの工場が案内の都合上人数制限有り。

4. 集合場所：横浜桜木町駅など、その都度指定。

5. 費用（学生の負担）

2025年2月実施は無料（現地までの交通費、入館料、昼食代等は自己負担）

6. 訪問先の選定

学生の要望を確認しつつ企画、リクエスト歓迎

JECK' Value

All English Factory Tour for International students

JECK' s mission **All English Factory Tour: Our value**

JECK offer various **factory tour** opportunities, particularly for international students in Economics, Business Administration, Engineering Sciences, Urban Sciences, and business-related fields. These tours can provide valuable insights into real-world applications, manufacturing processes, and industry collaborations.

Benefits of Factory Tours:

1. Practical Learning:

Students can observe real-world applications of their coursework and gain hands-on experience.

2. Industry Connections:

Tours can provide opportunities to network with industry professionals and build relationships.

Internship Programs (SMEs to Big companies)

3. Career Exploration:

Students can gain insights into different career paths within specific industries.

4. Understanding Innovation:

Tours can showcase the latest technologies and **innovations** in manufacturing.

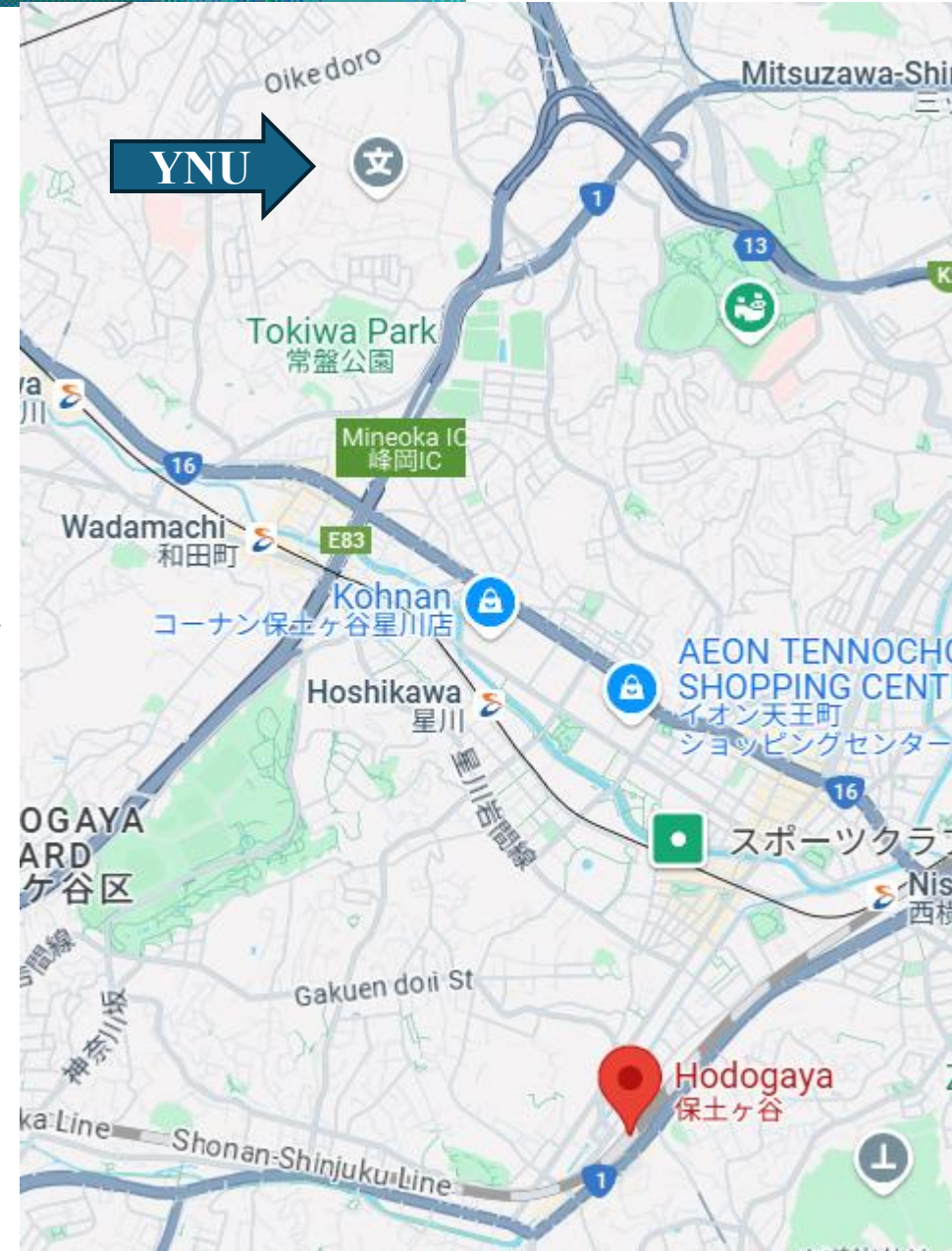
JECK Community-based earthquake risk prevention project

JECK is also engaging community-based **earthquake risk prevention** project.

Our project focuses on empowering **local communities** to actively participate in identifying, analyzing, and mitigating earthquake risks, ultimately reducing their vulnerabilities and enhancing their preparedness.

Target community: Hodogaya Town, close to JR Hodogaya station, and Wadamachi Station, Sotetsu Line.

The Tokaido, meaning "**Eastern Sea Road**," was the most important of the five main roads in the Edo period (1603-1868) in Japan, connecting Edo (modern-day Tokyo) with Kyoto. It was a **crucial route for commerce, travel, and cultural exchange**, and its history is well-documented through various sources, including the famous prints of Utagawa Hiroshige.



JECK Community-based earthquake risk prevention project

Hodogaya-juku (程ヶ谷宿, Hodogaya-juku) was the fourth of the fifty-three stations of the Tōkaidō. It is located in Hodogaya-ku in the present-day city of Yokohama, Kanagawa Prefecture, Japan

Hodogaya-juku was established in **1601**, and it was the westernmost post station in Musashi Province during the Edo period. The honjin still belongs to the same family today as the one that owned it when it was first opened. Additionally, there is a stone Buddha statue that travelers often prayed to for safety while traveling along the Tōkaidō.

The classic **ukiyo-e** print by **Andō Hiroshige** (Hōeidō edition) from 1831 to 1834 depicts a bridge over a stream, with two porters carrying a closed kago towards a village on the other side.

By the bridge is a soba restaurant with waitresses standing in front beckoning travellers to enter.



JECK's Motivations

1. Aging society → Quality of life declines
2. Declining population → Low birth rate, non-marriage tendency
3. Economic decline of Japan → Initiatives to **Accept Foreign Nationals** and for the **Realization of Society of Harmonious Coexistence**

Challenges to expand Japan window for international students

1. Language barrier
2. Japanese unique culture and **business practices**
3. Visa regulations



Guidance for "the English Factory tour for international students" in September 2025

I. Objectives of the tour:

1. To understand Japanese big factories **chemical, food processing and heavy industries.**
2. To understand the **role of local government on basic infrastructure.**
3. To understand **PPP (Public Private Partnership)** and **PFI (Private Financial Initiatives)** projects

II. Date of the Tour

Monday, 1 September 2025 to Wednesday, 3 September 2025

We have Zoom lectures before and after the study tour.

III. Cost: Free,

but please join our information seminar on Friday, 13 June 2025 below.

Registration: <https://forms.gle/8AWfyuwr8zZMDLMM8>

After completion of this course, the students are expected to:

1. be able to describe the Regional Economy and Development Strategy
2. independently formulate and discuss the problems of the regional economy,
3. have some knowledge of basic theories and concepts, especially regarding: PPP, PFI, Economic development, democracy, and the **unique history of Japan**,
4. understand the impact of world urbanization and **global supply chain**.
5. understand the development economics, anthropological perspectives on globalisation and the Third World
6. be acquainted with some current research and research discussions on Industrialization and Infrastructural development in Yokohama, Kawasaki and Ota district, Tokyo
7. independently and **critically analyse** and discuss central problems of local economic development
8. connect the theoretical studies to a practical reality and a **possible future job market**



工場スタディツアーの実績

- 2025 From Wednesday, 12 to Friday, 14 February 2025 (Japanese)
- 2024 From Wednesday, 4 to Friday, 6 September 2024 (**All English**)
- 2024 From Monday, 9 to Wednesday, 11 September 2024 (Japanese)
- 2023 From Monday, 4 to Friday 8 September 2023 (Japanese)

横浜スタディツアー—2025年2月実施

2月12日(水)

09:50 相鉄線西谷駅北口バス乗場集合 (遅刻厳禁)

09:55 西谷駅前62系統 (神奈中) バス乗車

09:57 愛宕旭環境センター前下車

10:00–11:30 **横浜市旭焼却工場** → 三菱重工業の受注 (PFI)

11:39 愛宕旭環境センター前62系統 (神奈中) 乗車 12:09 横浜駅西口下車

横浜駅周辺で昼食

13:00 地下鉄ブルーライン改札前に集合 (遅刻厳禁)

13:11 地下鉄ブルーライン 13:23 新羽駅 13:32 新羽町041系統バス乗車 13:39

折本町下車 徒歩11分

14:00–15:30 **(株) 崎陽軒 横浜工場**

徒歩 12分

16:00–17:00 **国土交通省鶴見川流域センター** → 危機管理型水位計 (日立製作所等)

徒歩 6分 JR横浜線小机駅で解散

横浜スタディツアー—2025年2月実施 募集要項

2月13日(木)

9:40 JR鶴見駅構内鶴見線プラットフォームに集合

9:45 鶴見駅 10:02 扇町駅 徒歩5分

10:15-11:45 **(株) レゾナック川崎事業所** ケミカルリサイクル

12:05 JR鶴見線扇町駅 12:27 弁天橋駅 弁天橋駅周辺で昼食

13:30-15:00 **(株) ダスキン 横浜中央工場**

15:14 JR鶴見線弁天橋駅 15:27 鶴見駅で解散

RESONAC
Chemistry for Change

<https://www.resonac.com/jp>

DUSKIN
喜びのタネをまこ

<https://www.duskin.co.jp/>

2月14日(金)

09:50 JICA横浜2F 資料館入口に集合

10:00-11:30 **JICA海外移住資料館**

11:41 ハンマーヘッド赤い靴バス乗車 11:50 桜木町駅前下車 11:59 JR根岸線乗車

12:12 鶴見駅 鶴見駅周辺で昼食 12:55 鶴見駅東口臨港バス乗場8番集合

13:00臨08乗車 13:09東亜合成横浜工場前下車 徒歩1分

13:30-15:00 **横浜市北部汚泥資源化センター** →JFEエンジニアリングの受注 (PFI)

15:21東亜合成横浜工場前乗車 15:30鶴見駅東口下車 鶴見駅前解散



JICA横浜 移住資料館



横浜市北部汚泥資源化センター



ダスキン横浜工場



国土交通省鶴見川流域センター

NP0法人JECK横浜スタディツアー-2025年2月実施（学生の感想）

横浜市旭焼却工場(三菱重工ほか): ストーカーが三菱重工のものだということで、三菱側からすればこの一件の契約をとりつけたことにより、先の40年間の修理における**収入が安定**して入るのだということを知った。

Q.日本の大学・大学院を卒業した有為な外国人がこのごみ焼却事業に就職(公務員として、または、施工等の民間企業のスタッフとして)しようとする場合、日本語能力以外に、どのような課題があるか？

A. 公務員としてゴミ焼却場に直営で配置される可能性があることにびっくりすると思われる。

Q.崎陽軒は、あえて全国展開を行わず、ローカル企業に徹していることをどう思いますか？

A.横浜を象徴するシューマイをローカル企業に徹して販売することが地元根付くブランドのような**特別感を出せていい**とプラスに働くと思う。しかし**全国展開**して売上を伸ばしてもいいのではという考えもある。

A.横浜を訪れたときだけに味わえることで、商品の**ロイヤリティに繋がる**と感じました。

A.ローカル企業にすることによって、**独自性やブランド力**が上がり地元の方々や観光客に人気を博すと思った。



横浜港の港湾設備を周回クルーズ



川崎キングスカイフロント



レゾナック（プラスチックの化学リサイクル工程）



横浜市金沢区 浄水プラント

大黒ふ頭（横浜市鶴見区）と本牧ふ頭（横浜市中区）の概要

1963～70年にかけてA、B、C、D突堤が順次建設され楕形の埠頭として整備

・1968（昭和43）年に日本における最初のフルコンテナ船が入港して以来、横浜港のコンテナ取扱個数の約5割を扱う主力ふ頭

1989年に供用開始された橋長850mの斜張橋



に
開
通

1971～90年にかけて埋立整備された横浜港初の本格的島式ふ頭

・東日本で最初の総合保税地域（FAZ）に認定。1996年にオープン。国内最大級の物流施設「横浜港流通センター（Y-CC）」があり、貨物の保管、荷捌き、流通加工のロジスティック機能。

・25バースが整備されており、コンテナバースからR0/R0船をはじめとした自動車専用船バースへの機能転換を進めている・野球場、テニスコート、海釣り施設なども有り。



JICA横浜の移住資料館



横浜カップヌードルミュージアム試作実習



東芝未来科学館 からくり人形の仕組み



横浜税関 模造品等の輸入を検査

**調査員
募集中**

工場スタディツアーのための調査を実施中

対象は、大田区、川崎市、横浜市
少人数での町工場の訪問も
インターンシップ

面談先:株式会社 ソノテック 取締役 営業技術部

樽谷 清顕 (タルタニ キョアキ) 部長

訪問日:2025/03/03 (月曜)14:00-16:30

1.Study Tourの受け入れ可否の確認

受け入れOK。工場内の見学もOK。超音波切削装置の開発の意義
実際に超音波ナイフで硬質ゴムを切断を体験。

固いゴムがまるで、ケーキのように簡単に美しく切れるを実感

2 中小企業のかかえる人材難

→大学にアピールできていない。中途採用を出しても、応募者が少ない。

特に、ビズリーチなど、**ダイレクトリクルーティング**の一般化に対応できていない。

採用には社風と合致するかを重視している。→学生はこの社風が合うかどうか、の識別ができていない。

3. 外国人材の採用の課題

語学力、すぐ辞めてしまう問題などは、やむを得ないと認識するようになった。これは日本人も同じ。

ソノテックではカナダ人の採用実績あるも、帰国を理由に3年で退社。そのカナダ人は奥様が日本人で日本語は問題なかった。

〒213-0013

神奈川県 川崎市 高津区 末長3-28-19

Tel : 044-877-8311

Fax : 044-877-8312

メール : tarutani@sonotec.com

ホームページ : <http://www.sonotec.com/>

4. 中小企業の魅力の確認

4.1 学べる環境

多くのことは、入社してから勉強してもらう。**大学で習ったことがすべてではない。**
文系でも、資材調達、マーケティングなどで十分活躍できる。

4.2 特許で成長可能

ソノテックには**多数の特許**の獲得実績がある。なかには、関東学院大学工学部の出身の女性が得たものもある。
→(例) 下町ロケットの佃製作所が帝国重工にとって、なくてはならない技術を保有。

4.3 文系でも活躍できる

調達業務に関心あれば、ティアー2, 3から見れば、営業であり、調達の知識、バリューチェーンへの関心は役立つ。近年は自然災害の甚大化、戦争riskの顕在化などで、グローバルバリューチェーンの再構築が必要
例えば、文系社員では、経済学部卒→人材派遣会社→ソノテックで営業、も活躍中。

4.3 発注先と協働で製品開発

製品開発は、**発注者のメーカーとの協働作業**。逆提案も含めたコミュニケーションが重要。
→外国人材が対応できるか懸念も、、、

4.4 若手でもすぐに活躍可能

若手でもすぐ活躍できる。例えば、フランスでの「展示会」に若手社員に参加してもらった。



↑ SONOTECは無数の**特許**でその存在感

← **超音波ナイフ**で硬質ゴムを切断を体験。
硬質ゴムがまるで、お豆腐のように簡単に切断できる。HPや会社案内の情報では理解できない、この会社の凄さを実感できる。（撮影：黒川 2025/03/03）

1. 工場 Study Tourを拡大

工場訪問は、学生と企業の相互理解を目指す

1.1 大企業のみならず、中小企業へも拡大。

1.2 **ものづくり**、の楽しさを伝えたい。→カイゼン・5S・TQMなどの教育も必要

2. インターン受け入れへの仲介役

2.1 短期、長期のインターン受け入れ先を開拓したい →費用負担？

3. 学生(留学生+日本人)への就活教育

3.1 日本の特有な**就活システム**(スケジュール、ES、SPI等)を理解させたい。

3.2 **日本企業の調べ方、仕事の内容**を講義したい。→学生・企業の思い込み、誤解を解消」

4. 高度外国人材定着への障壁の克服

4.1 語学力にこだわらない企業の体制、大学での日本語教育N3程度の必須化

4.2 終身雇用から**ジョブ型**への変化

JICA横浜の研修コース

復活させたい、JICA横浜の中小企業振興のための研修コース

2013年度SAARC諸国における輸出力強化のための中小企業振興研修の訪問先

JICA横浜の研修コースの訪問先（神奈川県異業種グループ連絡協議会（異グ連）を主体に実施。黒川（当時横浜国大教授）は研修コースリーダー）

South Asian Association for Regional Cooperation (SAARC), The Secretariat of the Association was set up in Kathmandu, Nepal, on 17 January 1987. SAARC has eight member countries (Afghanistan, Bangladesh, Bhutan, India, Maldives, Nepal, Pakistan and Sri-Lanka).

山友工業株式会社

<http://www.sanyukk.co.jp/>

LED（発光ダイオード）製造業：表示装置・電子制御機器を設計から据付まで安定した品質で一貫提供。人と機械のコミュニケーションを支え現代人の生活とライフラインを照らす。、表示装置とその周辺機器、LED照明器のメーカー。

■本社・工場

〒226-0006 神奈川県横浜市緑区白山 1丁目11番11号

電話：045-933-5843（代表）

従業員数：21名、資本金：60,000,000円

2013年度SAARC諸国における輸出力強化のための中小企業振興研修の訪問先

等々力工業会：川崎市等々力工業会（川崎市中原区、佐藤千助会長＝サトウ製作所社長）

(有)十川工業

<http://togawakougyo.web.fc2.com/>

〒211-0052 神奈川県川崎市中原区等々力6-26

精密機械板金、治具製作、試作品製作、設立：平成10年7月、資本金：300万円

信明ライト工業(株)

<https://www.shinmeilite.co.jp/>

熱硬化性樹脂（ガラエポ・ベークライト等）の積層棒、積層管の成形から加工まで

神奈川県川崎市中原区等々力5番22号、044-722-9145 FAX番号 044-733-4208

設立：昭和35年9月、資本金：1,200万円、従業員数：25名

サトウ製作所

免震テーブル：サトウ製作所を含む、チーム等々力（6社）と明治大学 大亦絢一郎教授（当時）により共同研究を行い、神奈川産業技術センターの協力を経て、長周期地震に対応する日本で初めての免震テーブルが完成しました。

2013年度SAARC諸国における輸出力強化のための中小企業振興研修の訪問先

日本ベーシック(株)

<https://nipponbasic.ecnet.jp/>

所在地: 〒211-0053 神奈川県川崎市中原区上小田中2-42-3-301

TEL/FAX 044-754-2892

nipponbasic@ceres.ocn.ne.jp

設立 2005年5月、資本金:1,000万円

取扱商品: 海水淡水化装置、常災兼備浄水器、キャリーケース収納型浄水装置
ガソリンエンジン式淡水浄水装置 他

株式会社 セプト・ワン

<https://www.sept1.com/>

〒236-0002 神奈川県横浜市金沢区鳥浜町3番地9

資本金:1,000万円、年商:1,070百万円(2022年度実績)、従業員数:28名

主な業務内容

- (1) 自動車用シートフレーム等の製造
- (2) 鉄道用部材、その他钣金部品の製造、販売
- (3) 園芸用品及び防災用品の製造、販売

(有)堀端製作所

<http://www.saturn.dti.ne.jp/horibata/>

〒211-0052 神奈川県川崎市中原区等々力6-9、TEL 044-733-0820

E-mail horibata@saturn.dti.ne.jp

○設立 昭和52年4月 有限会社 堀端製作所設立(資本金150万円)

○資本金 1,000万円

○営業品目 金型設計製作 順送型 単発型いずれもOK

精密金属プレス加工 ロボット加工 順送加工

* 液晶用バックライト(リフレクター) * スイッチ部品 * その他

神奈川産業振興センター

中小企業の振興・発展を期するため、県内経済界から中小企業関係団体相互の密接な連絡が図れるとともに、**見本市、展示会**等が常時開催できるような中小企業者のためのサービスセンター(旧神奈川県中小企業会館)の建設が要望されていたことを受けて、県の支援のもと、会館経営の主体として設立された。

<https://www.kipc.or.jp/>

東京都大田区内の中小企業振興研修の訪問先

有限会社 安久工機

〒146-0092 東京都大田区下丸子2-25-4 TEL03-3758-3727 / FAX03-3756-1250

Mail contact@yasuhisa.co.jp

設立 1969年8月

事業内容 原理試作・機能試作・量産試作・特注機械装置・治具・器具等製作、
機構・機械設計、受託開発、開発コンサルティング、3Dプリンタ販売等

資本金 1,000万円

従業員数 4名(2023年2月時点)

→2025年5月にヤスラボ
(**インキュベーション施設**)を開設！

OOF2020【工場紹介】有限会社安久工機

https://www.youtube.com/watch?v=mm33HcH_BIE



Facebook アカウントを作ろう！ 中高年世代、外国人とコミュニケーションできます！

Facebookアカウントを作成する#

facebook.comにアクセスして、[新しいアカウントを作成]をクリックします。

自分の名前、メールアドレスまたは携帯電話番号、パスワード、生年月日、性別を入力します。

[登録]をクリックします。

アカウントの作成を完了するには、メールアドレスまたは携帯電話番号を認証する必要があります。

<https://www.facebook.com/help/188157731232424>



NPO法人JECKのアカウント

<https://www.facebook.com/profile.php?id=61576760285724>

ぜひ、いいね、フォローをクリックしてください。お願いします。<m()m> ⁷²

9月6日水曜

横浜市金沢水再生センター

https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kasen-gesuido/gesuido/center/saisei_center/kanazawa/06kanazawawtc.html

横浜マリンルージュ

https://www.yokohama-cruising.jp/index.php?act=cruise&do=course_select&ship_id=001

大黒ふ頭

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/minato/yokohamako/gaiyo/daikoku.html>

横浜港埠頭株式会社 本牧ふ頭

<https://www.yokohamaport.co.jp/facilities/honmoku/>

JECK横浜Study2023 参考となるURL

9月7日木曜

カップヌードルミュージアム横浜

<https://www.cupnoodles-museum.jp/ja/yokohama/>

JICA横浜 海外移住資料館

<https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/index.html>

三菱みなとみらい技術館

<https://www.mhi.com/jp/company/aboutmhi/museum/minatomirai>

9月8日金曜

横浜税関

<https://www.customs.go.jp/yokohama/>

JECK

<http://www.jeck.jp/>

【植松努】 思うは招く 下町ロケットのモデル
Hope invites | Tsutomu Uematsu | TEDxSapporo

UE 植松電機



I hope the phrase "Try this way instead"
will spread throughout the world.

視聴者のコメント

「人は足りないからこそ助け合える、足りないことを馬鹿にするな」思わず涙が出てきました。足りないことは悪いこと、恥ずかしいことで、持ってる他人の足を引っ張って生きてきました。足りないことは人と助け合えるチャンスだったんですね。

<https://www.youtube.com/watch?v=gBumdOWWMhY>

*For more information,
please feel free to contact me:*



黒川清登 NPO法人JECK 副理事長 博士(学術)

郵便番号 231-0001 神奈川県 横浜市 中区 新港2丁目三番1号

JICA横浜センター3階 携帯090-6013-5937 JECK→

E-mail: kiyotok5@yahoo.co.jp



立命館大学 教授、筑波大学・関東学院大学 非常勤講師

黒川のLine友達リクエスト歓迎→



Prof. Kiyoto KUROKAWA Ph.D.

Graduate School of Economics, Ritsumeikan University

Address: 1-1-1 Noji-higashi, Kusatsu, Shiga 525-8577 JAPAN

Tel: 090-6013-5937, E-mail: kiyotok5@yahoo.co.jp

Copyright © 2025 All Rights Reserved



立命館大学



関東学院大学
KANTO GAKUIN UNIVERSITY

